

中国各民族青年友好交流団**訪問日程 平成 28 年 10 月 12 日（水）～10 月 19 日（水）****1 プログラム概要**

中国少数民族対外交流協会が派遣した中国各民族青年友好交流団（団長：俸蘭（ほう・らん）中国国家民族事務委員会国際交流司長）計 60 名が、10 月 12 日から 10 月 19 日までの 7 泊 8 日の日程で来日しました。

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、交流団は東京・北海道の大学、博物館などへの訪問や講義、民族行政関係者との交流を通じて、専門分野への理解と日本の青年や市民との親睦を深めました。また、歴史的建造物の見学、日本文化体験などを通して、「クールジャパン」に直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程**10 月 12 日（水）**

- ・羽田空港より入国
- ・東京タワー、皇居二重橋見学
- ・オリエンテーション

10 月 13 日（木）

- ・日本科学未来館視察
- ・東京外国語大学学生との交流会
- ・歓迎会

10 月 14 日（金）

- ・日中関係と民間交流に関する講義
- ・東京美術倶楽部特別展視察
- ・浅草、仲見世見学

10 月 15 日（土）

- ・北海道へ移動
- ・北海道箱根牧場にて生キャラメル作り体験
- ・苫小牧市美術博物館（アイヌ工芸品展）視察

10 月 16 日（日）

- ・支笏湖見学
- ・アイヌ民族博物館視察
- ・日本文化体験

10 月 17 日（月）

- ・登別地獄谷、さっぽろ羊が丘展望台見学
- ・北海道庁アイヌ政策推進室による講義
- ・北海道大学アイヌ・先住民研究センターによる講義
- ・北海道大学学生との交流夕食会

10 月 18 日（火）

- ・札幌市内見学（大通公園・札幌時計台・北海道庁旧本庁舎）
- ・東京へ移動
- ・歓送報告会

10 月 19 日（水）

- ・羽田空港より帰国

3 写真

	
10月12日 皇居二重橋見学 (東京都)	10月12日 オリエンテーション (東京都)
	
10月13日 日本科学未来館視察 (東京都)	10月13日 東京外国語大学学生との交流会 (東京都)
	
10月13日 歓迎会 倅蘭団長挨拶 (東京都)	10月13日 歓迎会 団員の民族舞踊披露 (東京都)
	
10月14日 日中関係と民間交流に関する講義 (東京都)	10月14日 東京美術倶楽部特別展視察 (東京都)



10月15日
苫小牧市美術博物館視察 (北海道)



10月16日
支笏湖見学 (北海道)



10月16日
アイヌ民族博物館視察 (北海道)



10月17日
さっぽろ羊が丘展望台見学 (北海道)



10月17日
北海道庁アイヌ政策推進室講義 (北海道)



10月17日
北海道大学アイヌ・先住民研究センター講義 (北海道)



10月17日
北海道大学学生との交流夕食会 (北海道)



10月18日
歓送報告会 訪日の成果を発表 (東京都)

4 参加者の感想（抜粋）

○日本のサービス業のレベルはとても高い。従業員は礼儀正しく、親切で友好的、時間を遵守し、社会秩序や団体としてのまとまりや協調性の維持に注意を払っていた。

日本の全体的な社会環境や自然環境はもとにもとても高いレベルに保たれており、社会秩序も良好で、公共衛生の状態も賛辞に値する。自然の景観地はきれいに管理されており、秩序もあり、社会全体の素養が非常に高いことが見て取れる。

日本の工業製品は品質が優れており、高い科学技術が反映されており、販売価格は透明化され、地域格差も大きくなく、社会的に信用できる体制になっている。

日本の皆さんはとても親切で、礼儀を十分に重んじ、年長者を敬い、来訪者の食物禁忌等への配慮が行き届いており、称賛に値する。

日本政府は日中両国関係の改善を非常に重視しており、若い世代が両国民の相互理解においてますます積極的な役割を果たしていくことを望んでいる。しかし、メディアの報道では、マイナス面でのニュースを伝えることの方が重視されており、肯定的な情報の伝達には関心が欠けているように思う。

○日本に初めて訪れ、最も感じたことは街がとても綺麗でまさに“一尘不染(非常に清潔でちりひとつない)”ということであった。街自体はそれほど大きくはないが、快適で落ち着いた感じを与え、私はこの街がとても好きになった。よく知られているように第二次世界大戦以降最近まで、中日関係は緊張状態にあったため、国内の親戚や友人からは、「この旅は危険で、行くべきではない」と言われていた。しかし私は彼らとは反対で、中日両国は歴史上で非常に深い文化のつながりがあり、両国の青年が相互交流をすることでお互いの文化をより深く理解するということは大変意義のあることだと思う。歴史を理解した上で私たちは更に、積極的に交流を深め日本の先進的な技術や文化を学び、共に両国間の生活水準を高めるために貢献する必要がある。

東京外国語大学の学生と交流したときは、流暢で標準的な中国語が外国人の口から出てきたことについてとても驚いたことを覚えている。実際の所、中日両国の交流は多く行われている。両国間で留学生を派遣しあう事、お互いの国を訪問し学習する事は共に中日関係を改善させている。7日間は決して長くはなく、たった7日間では日本の美しい景色を見つくすには到底足りなかったが、7日間は決して短くもなく、1万分以上の時間で両国の距離が少し縮まったと感じることができた。

中国各民族青年友好交流団の今回の旅は大変愉快で、日本側の温かいおもてなしに大変感謝している。青年は新時代の力であり、両国の友好交流のために最大の努力をしたいと思います。

○今年の夏休み、民族事務委員会から通知をいただき、この度の中国各民族青年友好交流団の一員として日本の事を知る機会を得ることができ、家族も大変喜んでくれて、私は今回海外での学習の機会を得た。

私の故郷は新疆であるため、先輩方は長距離の移動が体力的に難しくて受けることができず、また海外に出かける機会も多くはないため、先輩方としても私のような若者を通して外の世界を見て多くの事を学ぶことを望んだ。

日本科学未来館の見学では、私は日本が様々な病気に対してとても深い研究を行っていること、また、医薬品もとても発展していると感じ、家族のためにいくつか有名な医薬品を購入した。見学の中で、私はある軌道とボールで構成された組織がとても印象に残った。一番下には、人と植物を模した看板が立ててあり、軌道には銀色のボール（エネルギーの象徴）と赤色のボール（災難の象徴）があった。ボールが転がっていく過程で、赤色のボールが人間と植物の看板を倒しても銀色のボールが人間と植物の看板をまた立ちあげるというもので、簡単な機械に見えるが、自然原理の道理が隠されており、大変深く印象に残った。

東京外国語大学と北海道大学での交流では、多くの日本人学生が中国に対してとても好意的で中国に憧れていることに気付いた。決して調査で示されているような深刻な状況ではなく、私たちも楽しんで彼らに中国の特色や有名な観光地を紹介し、また連絡先を交換し良い友人となった。

アイヌ民族博物館の見学では、日本の少数民族文化について理解し、アイヌ民族のこんにちは“IRANKARAPTE”を学び、彼らの伝統歌曲や伝統舞踊を鑑賞できてとてもよかった。その後、彼らが、国境線の変更と領土遷移により生活場所を強制的に変えられて、仕事や言語も変えざるをえなかったことを知り、大変残念に思った。彼らが多くの困難を乗り越え、素晴らしいアイヌ文化を残し続けることを望んでいる。

○今回の訪問では、日本側の誠意と細かい気遣いを体感することができた。合理的な手配と多様な活動を通して、仕事をしているスタッフの一生懸命で謹厳な仕事ぶりが印象深かった。交流活動では日本の友人たちの親切さを体感した。私は、私たちのような民間の交流活動を多く行う事で更にお互いの理解を深め、信頼が増し両国間の平和と発展の一助になると思った。それゆえに、今回のような交流活動は有意義で成果が得られると思う。

帰国後私は日本の友人たちの親切さ、友好、そして日本の科学技術の発展と現代的な建築、人々による環境保護等のような日本の良い印象を周囲の人に伝えようと思う。

○日本のアイヌ民族の伝統技芸、芸術、服飾、人口、習慣について学んだ。また、日本の「大和民族」以外の民族に対する政策や保障について学んだ。加えて、日本社会で同一民族ではない民族同士の交流の状況についても理解することができた。アイヌ民族も独自文化と特徴のある民族だと理解できた。そして他の民族のように発展した規律があった。日本の大学生は中国に対して予想よりはるかに多くの事を知っていた。彼らとの距離が縮まったと思う。学生の多くは中国に来たことがあるばかりでなく、中国の少数民族の状況についても理解があった。私は日本の青年たちがこのようなことを学び理解しようとする意識が素晴らしいと思った。

○青年交流と友好の促進、相互理解の増進という観点からみると、今回の訪問は大変多くの成果があった。

両国の参加者は皆親切で友好的な態度で交流活動を行い、お互いの印象はとても良かった。参加者は交流活動中、皆各々の文化や伝統、技能を披露した。お互いの文化や礼儀、生活習慣を尊重しお互いの国の良いところを注意深く学び、不足するところを克服し、自ら省みて見つめ直すことで、両国の関係改善のため、進んで努力したいと思う。

○私自身にとって今回最も印象的だったのは、アイヌ族に関する知識を得たことである。資料を読んで、日本は民族という区別がない国家組織であることが理解できた。簡単に言えば身分証にあたる書類には「民族」という項目がない。そのため、アイヌ族という民族の人口統計が難しくなっている。しかし私がとても感心したことは、アイヌ族の人たちはとても民族意識を強く持っており、自分たちの伝統文化を発信していたことである。(私たち中国の少数民族が)社会から差別を経験した後、私達は日本の民族に対する前向きな考え方を学ぶべきであり、発展の観点からこの問題を見ると、民族は国を構成する上で重要な役割を果たしており、民族文化の高揚や、民族精神の伝承は、国内の安定に有益であり、国全体の発展も促進すると思う。